



# 健康テラス



## 子供の吃音(どもり)について



もり小児科  
森 剛一 先生

吃音(どもり)は、発語時に最初の音あるいは、音節が反復して発声される連声(繰り返し)、言葉の最初の音が引き延ばされる(引延ばし)、発語を企図しながら音声化できずつまってしまい無音となる(ブロック)に分類されています。症状は進行するにつれ繰り返し、引延ばし、ブロックと順に症状が出てくることが多いようです。

一般的に言われる吃音は繰り返しです。軽い場合はゆっくり話すことを指導したり、子供が話するときよく聴いてあげると自然に改善することがあるようです。引延ばし、ブロックと進行していくと治りに

にくいと言われており、年齢が上がると治りにくい傾向にあるようです。一人で自発的に話すときは起こりにくく、他の人とコミュニケーションを必要とする場合は緊張が増すため、吃音が起こりやすいと言われています。そのため小学校に入る前までに改善されることが理想ですが、治りにくい場合は健診や一般の診療の場で医師に相談され、言語訓練士による専門的な言葉の訓練を受ける必要があります。

## かい介GOの部屋



### ～あなたの居場所はどこですか？～

今回は、定年退職や子どもの独立、配偶者との死別など社会的役割からの卒業やライフイベントの変化後の生活を考えてみましょう。

《事例》 AさんとBさんの場合です。

Aさん(60代女性)  
脂質異常症(高コレステロール)と肥満のため運動指導を受けたが、自宅内での趣味に一人没頭し、活動量が少ない日々を過ごす。

足腰が弱くなり、自宅内で転んで骨折してしまった。介護保険でヘルパーを利用するようになるが、友人や家族などとの交流もないため相談もできず、今後について毎日不安な気持ちで過ごしている。



それぞれの10年後は…

Bさん(60代男性)  
定年後、趣味もなくしばらく家で過ごしていたが、友人に脳トレ教室に誘われ参加したのをきっかけに、ボランティア活動も始めた。

高血圧で定期受診をしているが、薬で落ち着いており、ボランティアも続けられている。「ありがとう」と言われることに喜びを感じ、毎日充実していると感じる。



社会的交流の場を持つことは、高齢期においては認知症予防など健康の保持増進に大きく影響することがわかっています。もしも、自分の居場所をお探しでしたら、介護予防事業や自主サークル、ボランティアなどをご紹介しますのでお気軽にご相談ください。 役場介護保険課、地域包括支援センター 887-3008